

2026年度入試 文学研究科 解答又は解答例及び出題意図

課程	博士課程前期
実施期	I期
科目名	<国文学・国語学・漢文学>
	解答又は解答例 及び出題意図
[A]	〔解答又は解答例〕 〔出題意図〕 国文学の重要事項に関する基本的な理解があるかどうかを問うものである。
[B]	〔解答又は解答例〕 〔出題意図〕 国文学に関する本文読解力があるかどうかを問うものである。
問1	〔解答又は解答例〕 いずれも HLL となる。 〔出題意図〕 地名と人名に関するアクセントの議論を正確に読み取り、指示通りの回答が適切に示されているかが問われている。
問2	〔解答又は解答例〕 ロ 〔出題意図〕 形態的な観点から言語の分析を行うために必要となる知識が問われている。

問 3	<p>〔解答又は解答例〕</p> <p>仮説 1 では地名と人名が異なるアクセントを有することになるという主張が示されているが、(3) では、両者が、LHHHL というパターンになるという点で、仮説 1 の反例となることが示されている。</p> <p>〔出題意図〕</p> <p>地名と人名に関するアクセントの議論を正確に読み取り、指示通りの回答が適切に示されているかが問われている。</p>
問 4 (i)	<p>〔解答又は解答例〕</p> <p>接辞「市」では、これが接することで接する前のピッチパターンを変えるはたらきがあり、語末を常に HL に変えるはたらきがあるのに対し、接辞「氏」にはそのようなはたらきはなく、接する前のピッチパターンを変更することなく後接することになる。</p> <p>〔出題意図〕</p> <p>地名と人名に関するアクセントの議論を正確に読み取り、指示通りの回答が適切に示されているかが問われている。</p>
問 4 (ii)	<p>〔解答又は解答例〕</p> <p>アクセント持っているのは「市」の方である。なぜなら、「市」は語末を常に HL に変えるはたらきがあるが、接辞「氏」は接する前のピッチパターンを変更することなく後接することになるからである。</p> <p>〔出題意図〕</p> <p>地名と人名に関するアクセントの議論を正確に読み取り、指示通りの回答が適切に示されているかが問われている。</p>
問 5	<p>〔解答又は解答例〕</p> <p>【仮説 1】の (b) を「固有名詞のアクセントに変化を起こさずに後接する。」と書き換えればよい。</p> <p>〔出題意図〕</p> <p>地名と人名に関するアクセントの議論を正確に読み取り、指示通りの回答が適切に示されているかが問われている。</p>

問 6	<p>〔解答例〕</p> <p>「県」「区」など</p> <p>〔出題意図〕</p> <p>地名と人名に関するアクセントの議論を正確に読み取り、指示通りの回答が適切に示されているかが問われている。また、母語に関する言語知識を内省して、言語知識の中から適切な表現を選び出す力が問われている。</p>
-----	--